

第3節 館内奉仕

一般の利用については、昨年と特に変わった数字はなく若干下回っているが、これは一般の利用者にとってもっともほしい新刊書特に文学、時事的なものが、需用に応ずるまでに至らなかったことからではないかと考えられる。そういった意味で5月19日(月)に利用アンケート調査を実施したが、次のような意見が出されている。

(1) 実施対象者

136人(入館者 313人 回収 121人 回収率 43%)

(2) 実施対象者内訳

| | | |
|-----|-----|-------|
| 勤め人 | 43人 | 35.5% |
| 自営業 | 4 | 3.3 |
| 主婦 | 3 | 2.5 |
| 無職 | 12 | 10.0 |
| 学生 | 39 | 32.2 |
| 生徒 | 20 | 16.5 |
| 計 | 121 | 100.0 |

(3) 調査内容(図書館に対する希望・意見)

① 開閉館時間

○開閉館時間を延長してほしい。 12人

② 資料及び貸出

○新刊書の増冊 14

○新聞雑誌の増加 4

○貸出冊数の増加、同期間の延長 7

③ 施設設備

○施設設備の改良 19

○閲覧席の増加、新設 12

④ その他

○読書相談、教育相談の実施 3

○PRをせよ 2

○利用してよかった

A コピーサービス 1

B 求めた資料があった 3

C 職員がよく相手になってくれる 7

というような結果がでている。開閉館時間、新刊書、施設等一挙に解決のつくことばかりではなく、職員としては、現環境をふまえて、利用者の要求を満たすよう今後も極力努力する所存であるが、現状では資料費、施設の老朽、狭穢化などこれらの要求をかなえることはかなりむづかしくなっていると考えている。

1 利用状況

利用状況は昨年と比し、いくらか減っているが、大きな変化は見られない。公開図書室の利用者が減った反面、2階調査相談室の方は増えてきている。資料利用の記入されたものは1日平均119人となっているが、総入館者数は5月半ばから8月半ばまで正確に数えたところ、平均して450人が入館している。4分の3は全然資料を利用しないかということ、そうではなく、これらのうち約半数は、新聞、雑誌、あるいは、参考図書等を利用していることになっている。館外個人貸出

登録者数も、昨年とほぼ同じで、桜の聖母学院の中・高校生が移転のため、来館者がほとんど見られなくなったが、総数において変りはなかった。館外の登録者は県内といっても、福島市在住者が大半を占め、20万人に対する4,000人は多いとは言い得ないかも知れないが、川崎市にある神奈川県立川崎図書館が10,500人という実情から比べれば、まずまずというところであろう。しかし、東京都下近辺の各市立図書館の近年のこれらの利用者の増加は目をみはるものがあり、それらは単なるPRではなく、真に地域住民の要求する資料を大量にそろえるといった姿勢が利用の増大につながってきているのであり、市立県立の相違等をうんぬんする前に、公立図書館としての方途のあり方をとり入れるべきではないと思われる。詳細な数字は〔表1〕以下のとおりである。

2 調査相談業務

単なる図書の貸出しから、自己の調査研究のために図書館を利用するといったほんとうの図書館利用といわれるものでコピーサービスとあいまって、年々利用者が増大し、職員もその応待にいとまない実情であり、利用者直接の来館もさることながら、電話、文書等による利用者に代っての職員の業務が著しく多くなってきている。

これらの応待には、いかなる資料がいつか役に立つときがあるかも知れなく、資料については、入手したものはすべて整理のうえ、保存される訳であるが、収容する書庫もいっぱいになり、或る程度処分をしなければならなくなってきており、その是非をめぐって、将来のことを考えながら、検討している。しかし、簡単に現状だけで処理することはさげなければならぬと考える。

相談業務に関しての利用状況は〔表4・5・6・7〕である。

3 展示会

今年度は、郷土作家展といったようなことで、次の三作家の図書、原稿、遺品等の展示を行った。

東野辺 薫 6月2日～8月29日

斎藤 利雄 9月11日～11月15日

天田 愚庵 12月8日～1月30日

東野辺、斎藤両氏については、遺族の好意で、芥川賞の時計、未発表の原稿、その他数々の貴重な品を借用でき、また愚庵についてはいわき市の中柴、鈴木両氏の配慮でこれまた貴重な品を展示することができ、来館者の目を十分に楽しませることができた。

4 入館者実態調査

5月19日から8月16日にわたって実施した実態を平日と土曜日とに分けて、その平均値を求めたものが、表8～9である。1時間毎に入退館、在館、資料利用者等を出して見ると平日と、土曜日とでは、そのピーク時が土曜日が早くなってきていること以外は大きな差は見られない。『在室者数』の3階は学習を主とした学生・生徒であり、1～2階は資料利用者と見なしてよい。在室者の約半数は新聞雑誌、参考図書等を利用している。資料利用者は記入されたものだけである。